

第3学年 国語科学習指導案

児童 3年2組 男19名 女10名

指導者 金野晶子

金子みすゞ子ども記念館を開いて、作品のすばらしさを伝えよう

中心学習材 「私と小鳥と鈴と」 (光村図書 3年上巻)

「大漁」「星とたんぼぼ」 (金子みすゞ全集・IⅡⅢ JULA出版局)

補助学習材 金子みすゞ童謡集「わたしと小鳥とすずと」「明るいほうへ」「このみちをゆこうよ」

(選者 矢崎節夫 JULA出版局) 他

〈育てたい主となる能力〉

- ◎文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く。(読オ)
- ◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。(読ウ)

〈主となる言語活動〉

- ◎同一作者の詩集を読み、自分が感じた作品のすばらしさを紹介・本の帯・音読・詩の創作等で表現し合い、感想を交流する。

1 子どもと単元について

(1) 学習者観

子どもたちは、文学的な文章を「読むこと」の学習として、「きつつきの商売」や「ちいちゃんのかげおくり」では、学年や保護者に向けての音読発表に向けて、内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読するために、気持ちの変化や情景が分かる言葉や文章に着目しながら読み取り、自分たちで考えた「音読アイテム」や「音読記号」を用いて表現する活動を行い、「ちいちゃんのかげおくり」では、並行読書で読んだ戦争をテーマとした本の中から、心に残る場面を音読し感想を交流する活動に取り組んでいる。また、「世界の民話を読んで、ブックレストランを開こう」の単元では、中心学習材「三年とうげ」で学んだ「人物紹介」「粗筋の要約」「引用と解説」という読みの技を並行読書で読んだ世界の民話に生かして、本の帯やブックトークの表現方法で紹介し合う活動を行ってきた。詩を扱う単元としては、「詩を楽しもう」において、まど・みちおの「キリン」を中心学習材として、詩の形や表現のおもしろさをとらえ、音読したり詩を創作したりする活動を行ってきている。

これらの学習を通して、目的に応じて本を選んで読み、読み取ったことや感想を音声や文章で表現する力が育ってきており、表現し交流する活動を楽しみながら意欲的に取り組んでいる。

日常的な読書活動では、給食時間に読み聞かせを行ったり、学級文庫やワークスペースへ「本は友だちコーナー」を設置したりして、気軽に読書を楽しめるようにしている。さらに、朝の会で行う「トークタイム」の話題に「お薦めの本」を入れたり、週末日記に「ミニ感想文」を書いたりして読書と表現活動を結び付けるように心がけることにより、友達同士でも自然に本を紹介したり自主的に読書感想文を書いたりする姿が見られるようになった。

(2) 学習材観

本単元「金子みすゞ子ども記念館を開いて、作品のすばらしさを伝えよう」は、全校で毎月音読・暗唱している金子みすゞの詩のすばらしさを伝えるために、作者の心(思い)や情景について、叙述を基に五感を使って想像して読み深め、そこから感じ取った作者の心や自分の感想を交流することにより、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことをねらいとしている。

これまでに児童が教材としてふれてきた詩は、擬態語や擬音語の響きや言葉のリズムがおもしろい作品

が主であった。それに対して、金子みすゞの詩は、作者の心（思い）が内容になっている作品が多い。

中心学習材として扱う『わたしと小鳥とすずと』は、人は飛べず、鳥は走れない。人は鳴らず鈴は歌えない。人は走り鳥は飛ぶ。人は歌い鈴は鳴る。この対をなした巧みな表現によって、「みんなちがって、みんないい。」に込められた作者の心（思い）が確かな説得力をもつ。『大漁』では、大漁に賑わう浜の様子を歌った一連に対して、海の中では鰻たちが「とむらい」を行うと歌う二連。このまなざし（視点）の変換に驚かされるとともに、すべてのものへの優しさが湧き起こってくる。そして、『星とたんぼぼ』は、「昼のお星」と「すがれたたんぼぼの根」を「見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。」と、心の目で見ること・感じることで世界が広がることを語りかけている。

以上の「みんなちがって、みんないい」「まなざしをかえる」「見えぬものでもあるんだよ」という三つの視点（作者の心）を手がかりに、同一作者の詩集を読むことにより、作者の心をより深く感じ取り、一人一人が自分の心に響く作品に出会うことができるであろう。この詩との感動的な出会いが豊かな感想を生み、表現したり交流したりしたいという意欲に結び付くと考ええる。

（3）学習指導観

本単元では、文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く力を育てるために、同一作者の詩集を読み、作品のすばらしさを読み取り、感想・紹介・音読・詩の創作という表現活動を通して、感想を交流するという言語活動を行う。

指導に当たっては、以下の点に留意していく。

第1次では、9月の校外学習で見学した石川啄木記念館や、宮沢賢治記念館等を取り上げながら、4月から詩の暗唱で親しんできた金子みすゞの作品について、読書活動を基に学んだことを展示、発表する場としての記念館活動を行うという単元のゴールを明確にして計画を立てる。また、取り組む言語活動については、実際の記念館を参考にしながら、これまでの学習を生かして、作品紹介・感想文・音読・創作等の中から児童が選択できるようにする。

第2次では、「わたしと小鳥とすずと」「大漁」「星とたんぼぼ」の三つの詩について、心に響く言葉とその理由を話し合うことにより、作者の心（思い）を読むという新たな読みの視点について学習する。その際、詩の表現技法にもふれ、作者の心を強く印象付けていることにも気付かせたい。

第3次では、グループごとに表現活動が異なるので、言語活動に合わせた学習計画を立てた上で、のワークシートを用い、主体的な活動ができるように支援する。また、各時間のまとめには、その時間の学習活動の中で見つけた金子みすゞの作品のすばらしさや感想を交流する活動を取り入れる。そこでは、自分との共通点と相違点に気を付けて聞いたり話したりするとともに、「互いに分かり合うこと」が目的なので、相手の目を見てうなずきながら聞くという話し合いの態度面も大切に育てていきたい。

第4次では、「記念館オープニング祭（仮称）」を行い、グループ毎の学習の成果を発表し合い、友達の発表を聞いて気付いた金子みすゞの作品のすばらしさや感想を交流する。記念館活動は、昼休みにワークスペースで行い、交代で学芸員になって来館者に展示物の説明する活動を行う。

《読書との関連》

本単元では、読書との関連を以下のように図っていく。

ブックトラックに、大人向けの「金子みすゞ全集」から、低学年向けの絵本までを取りそろえ、自分に合った本を選んで読むことができるようにする。その際、学校に所蔵する金子みすゞの詩集には、冊数に限りがあるため、市立図書館など公立の図書館と連携を図り本の内容を充実させたい。

また、給食時間に行っている読み聞かせの時間を利用して、金子みすゞの詩を1日に1編ずつ紹介する「みすゞタイム」を設定し、より多くの作品に触れることができるようにしたい。

【ブックトラックに用意した本】

番号	書名	出版社	番号	書名	出版社
1	金子みすゞ童謡集 このみちをゆこうよ	J U L A出版	1 3	みすゞこれくしょん わたしと小鳥とすずと	金の星社
2	金子みすゞ童謡集 明るいほうへ	J U L A出版	1 4	みすゞこれくしょん 明るいほうへ	金の星社
3	金子みすゞ童謡集 わたしと小鳥とすずと	J U L A出版	1 5	みすゞこれくしょん ふしぎ	金の星社
4	金子みすゞ 南京玉 娘ふさえ・三歳の言葉の記録	J U L A出版	1 6	みすゞこれくしょん おさかな	金の星社
5	ふうちゃんの詩 (南京玉より)	J U L A出版	1 7	みすゞこれくしょん 星とたんぼぼ	金の星社
6	ほしとたんぼぼ	J U L A出版	1 8	おひさん、あめさん	J U L A出版
7	空のかあさま	新日本図書	1 9	金子みすゞでのひら詩集1	J U L A出版
8	春	春陽堂書店	2 0	金子みすゞでのひら詩集2	J U L A出版
9	金子みすゞ全集 I	J U L A出版	2 1	なしのしん	J U L A出版
1 0	金子みすゞ全集 II	J U L A出版	2 2	花がゆれるとき	教育出版センター
1 1	金子みすゞ全集 III	J U L A出版	2 3	茜	春陽堂書店
1 2	キネマの街	J U L A出版	2 4	海とかもめ	J U L A出版

(4) 教科等の学習や日常生活への活用例

- ・詩を創作し、自分だけの詩集をつくる。(国語)
- ・作家やテーマに着目した記念館活動を行う。(国語・例「新美南吉記念館」「戦争と家族を考える記念館」)
- ・郷土の先人など、興味を持った作家の生涯や業績・作品などを調べてまとめる。(総合的な学習)
- ・「お気に入りの詩の紹介」「お気に入りの作家の紹介」(朝の会などのスピーチ)

2 学習指導目標及び評価規準

	学習指導目標	評価規準
国語への関心・意欲・態度	◎同一作者の本を進んで読み、作品を紹介したり、感想を交流したりしようとする。	・同一作者の詩集を進んで読み、心に響いた作品を紹介したり、感想を交流したりしようとしている。
読む能力	◎同一作者の詩を読んで、想像したことや感じたことを発表し合い、一人一人の感じ方のよさや違いに気付くことができる。(読オ) ○作者の心や情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。(読ウ)	・同一作者の詩を読んで、想像したことや感じたことを発表し合い、友達の感じ方のよさや自分との違いについて書いたり話したりしている。 ・叙述を基に詩の情景や作者の心(思い)を想像して読み、音読や作品の紹介、感想などに表している。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。(イ(ア))	・言葉に着目して詩を読んだり、「感想の言葉カード」を基に自分の感想を表す言葉を吟味したりしている。

3 学習指導計画（全 10 時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

第 1 次
単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。
(2 時間)

- ① これまでに音読・暗唱してきた金子みすゞの詩を読み、自分が好きな詩について理由を交流する。
 - ② 石川啄木記念館見学のビデオや他の記念館のパンフレットを基に「金子みすゞ子ども記念館」を開く計画を立てる。
- 〈評価〉
- ① 好きな作品について、「詩のおもしろさ」の観点を基に、理由を挙げながら書いたり話したりしている。《ノート・発言》
 - ② 作品のすばらしさを伝えるために記念館を開くというねらいを理解し、学習の計画を立てている。《話し合い・計画表》

「詩を楽しもう」の学習で学んだ、「詩のおもしろさ」の視点や五感を使って想像するという知識・技能を活用して、好きな作品についての理由を交流する。

第 2 次
作品のすばらしさや作者の心を考えて、金子みすゞの作品を読む。
(2 時間)

- ③ 「わたしと小鳥とすずと」「大漁」「星とたんぼぼ」の 3 編の詩について、心に残る言葉とその理由を交流し、作者の心（思い）を想像する。
 - ④ 情景や作者の心を想像しながら他の詩集を読み、記念館で紹介したい詩を選ぶ。
- 〈評価〉
- ③ 三つの詩の情景について、叙述を基に五感を使って読み取り、最も心に残った言葉から作者の心を考えている。
《ワークシート・発言》
 - ④ 情景や作者の心を考えながら同一作者の詩集を読み、記念館で紹介する作品を選んでいる。《態度・読書の様子》

「詩を楽しもう」や「ちいちゃんのかげおくり」の学習で学んだ、詩の表現の工夫や五感を使って想像するという知識と技能を活用して、詩の情景や作者の心を考える。

第 3 次
グループの計画に沿って、金子みすゞの作品のすばらしさを伝える展示物・発表の準備をする。
(4 時間)

- ⑤⑥⑦【グループ活動】
作品紹介・本の帯作り・音読（ビデオシアター）・詩の創作等のグループに分かれ、計画に沿って展示物の準備活動をし、金子みすゞの作品のすばらしさや感想を交流する。(⑥本時)
 - ⑧【全員】来館者へプレゼントする記念館オリジナルしおりを作る。
- 〈評価〉
- ⑤⑥⑦ 記念館の展示物準備という表現活動を通して、金子みすゞの作品のすばらしさを見付け、感想を交流する中で自分と友達の見方方の共通点や相違点に気付いている。
《ワークシート・発言》
 - ⑧ 自分が気に入った作品の中から、作者の心を感じる言葉やフレーズを抜粋してしおりを作っている。《しおり》

前単元までに学習した知識・技能
・感想語彙
・引用と解説
・音読記号
・詩の様式
・抜粋
を用いて、作品のすばらしさや作者の心について考え紹介する。

第 4 次
記念館オープニング祭を開き、展示物の紹介や発表を行い、感想を交流する。学習のまとめをする。
(2 時間)

- ⑨ お客さんを招待し、記念館オープニング祭を開催し、作品のすばらしさや感想を交流する。
【課外】記念館活動（1 週間）
 - ⑩ 来館者アンケートやオープニング祭のビデオを見て、自分や友達の見方のよさを交流し合う。
- 〈評価〉
- ⑨ 自分が見つけて表現した作品のすばらしさが伝わるように発表し、他のグループの発表を見聞きして見方方の違いに気付いている。
《発表・ノート》
 - ⑩ 単元を通して学んだことや身に付けた力について振り返り、自分の成長を実感している。《ノート・発言》

「世界の民話を読んでブックレストランを開こう」で学習したブックトークや交流の仕方の知識・技能を活用して、作品のすばらしさを伝えたり、感想を交流したりする。

4 本時の指導

(1) ねらい

自分が選んだ金子みすゞの作品のすばらしさを伝えるために、作品紹介（詩画集）・本の帯作り・音読台本作り・詩の創作を行い、作品についての感想を交流することにより、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。

(2) 既習の知識・技能を活用する言語活動

「世界の民話を読んでブックレストランを開こう」の学習では、「三年とうげ」を中心学習材としながら、お薦めの本について引用や要約、人物紹介等を用いてお話のおもしろさを本の帯に表し紹介し合うことができた。また、「戦争と子どもたち～音読交流会をしよう」では、「ちいちゃんのかげおくり」を中心学習材としながら、戦争のお話について、心に残った場面を選んで音読記号を用いて音読台本作り、感想と合わせて交流し合う活動を行っている。本時の学習では、これまでに学んできた本の紹介の仕方や音読記号、そして交流の仕方についての知識・技能を生かし、金子みすゞの作品を紹介する展示物や発表の準備をし、その中で感じた作品のすばらしさや感想を交流する。

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	形態	指導上の留意点
つかむ	<p>1 本時の学習課題を確認する。(2分)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">金子みすゞの作品のすばらしさを見つけて、感想を交流しよう。</p> <p>2 課題解決の見通しをもつ。(5分)</p>	全 グ 全	<p>○同一の詩を異なる表現方法で紹介している児童の感想(前時)を用い「感じ方の違い」を意識させる。</p> <p>○主体的な学びにするため、学習計画を基に、グループごとに学習活動の内容と進め方を確認する。</p> <p>○各グループが活用する既習の知識や技能を掲示や板書に位置付け、ポイントを絞って確認する。</p>
記念館の展示物や発表の準備をする	<p>3 学習課題を解決する。</p> <p>《作品紹介(詩画集)グループ》</p> <p>(1) 紹介したいお気に入りの詩を視写する。(10分)</p> <p>(2) 心をひかれた言葉や作者の心を感じるフレーズを引用して感想を含めた作品紹介を書く。(10分)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">引用…(言葉)「 」を付ける。 作品紹介…五感を使って読む。 作者の心を想像する。</p> <p>《本の帯作りグループ》</p> <p>(1) ワークシートに紹介したい詩集の帯を下書きする。(20分)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">本の帯に書く事柄 ・心に残る言葉(引用)や絵 ・感想 ・作者のメッセージ ・作品紹介 ・お薦めの言葉 等</p> <p>《ビデオ詩集グループ》</p> <p>(1) 選んだ詩の感想と音読のポイントを書く。(10分)</p>	個 グ	<p>「じっくり読み味わったり音読や詩に表したりして、金子みすゞの作品の素晴らしさを更に見つけていきましょう。」</p> <p>○作品紹介(詩画集)グループでは、作品から受けた感動をそのまま伝えるという取り組みやすい活動として位置付ける。その中で、感動につながった「言葉」や「リズム」、「目線」に着目できるよう、引用を用いて「作品紹介」を書き表し、思考力・判断力を高めていく。また、「感想・紹介の言葉カード」を活用し、感動を表す言葉や紹介に用いる言葉を豊かにしていきたい。活動の時間差を考慮して、心に浮かんだ情景を絵に表してもよいことにする。</p> <p>○本の帯作りのグループは、詩集を紹介したい児童が取り組む。前時、ワークシートに取材した「詩(詩集)のおもしろさ」の中から、本の帯に書き表したい要素を選び、読者を引き付けるレイアウトを工夫して書き表す。本時で使用するワークシートの上段に民話の帯作りの時に学習したレイアウトの工夫や引用の仕方を載せ、手掛かりとさせたい。</p> <p>○ビデオ詩集グループでは、前時に詩を視写して五感読みを書き込んだワークシートを用いる。まず、自分の受けた感動から、「こんなふうに音読したい」という全体のイメージを明らかにしてから、音読記</p>

<p>記念館の展示物や発表の準備をする</p>	<p>(2) 音読台本（前時ワークシート）に音読記号を書き込む。（10分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>五感を使って想像読み → 音読記号</p> </div> <p>《わたしも詩人グループ》</p> <p>(1) イメージマップ（前時作成）の言葉を読み、詩に使う言葉を選んだり順序（連）を考えたりする。（5分）</p> <p>(2) 金子みすゞの作品から感じ取った心をテーマに詩を作る。（15分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>詩の様式や表現の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文頭をそろえる ・ 改行 ・ 擬音語や擬態語 ・ リズム 等 </div> <p>4 金子みすゞの作品のすばらしさや感想を交流する。</p> <p>(1) グループで交流する。（7分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と同じところや違うところを見付けながら聞く・話す。 ・ 目を見てうなずきながら聞き合い、分かり合うことを大切にする。 </div> <p>(2) 全体で交流する。（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品が違っても共通するすばらしさや心について話し合う。 	<p>号を付けていく。感動を伝えるためにどのような音読の仕方が適しているかを考えることで思考力・判断力を高めていきたい。また、次時に音読練習→グループでのアドバイス→修正→ビデオ撮影を行うことにより表現力も高めることができると考える。既習の音読記号を掲示して活用を図る。</p> <p>○詩の創作グループは、第2次で読んだ金子みすゞの作品から感じ取った心をテーマに、違う題材で詩を創作する。難易度が高い活動なので、作者の作品を模作して一部分を変えることもよいこととする。</p> <p>「金子みすゞの詩について、見付けたすばらしさや感想をグループで交流しましょう。」</p> <p>○グループの交流では、「心をひかれた言葉・フレーズ」→「自分が見付けた作品のすばらしさ・心」や「自分の感想」の順で話していく。次に話す人は、「～さんと同じで（似ていて）（違って）」の話形を用いることにより、比べながら聞き、作品が違っても共通するすばらしさや、それぞれの考えの違いに気付くことができるようにする。</p> <p>○グループ内で全員が発表を終えたら、友達の考えのよさをカードに書いて渡す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈評価〉</p> <p>A 作品のすばらしさや感想を友達との共通点や相違点に気を付けながら発表し、友達の感想や考えのよさに気付くことができる。</p> <p>B 作品のすばらしさや感想を友達との共通点や相違点に気を付けながら発表することができる。</p> <p>Cへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の感想がもてるよう個別に対話していく。 ・ グループの交流では「同じ」「違う」の言葉を使うように、グループのリーダーと確認する。 <p style="text-align: right;">〈交流の様子・カード〉</p> </div>
<p>まとめ</p>	<p>5 学習を振り返る。</p> <p>(1) 自己評価をする。（3分）</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の頑張り，できたこと ・ 光る友達 ・ これからの学習について </div> <p>(2) 振り返りを交流する。（3分）</p> <p>6 次時の学習内容を確認する。（2分）</p>	<p>個</p> <p>○今日の学習で「頑張ったこと」や「できるようになったこと」を視点に自己評価することにより言葉の力の高まりを実感させる。また、「光る友達」ではグループや全体での交流で見付けた友達の考えのよさについて記述することにより、相互評価の力を育てる。</p> <p>全</p> <p>○本時のねらいにかかわる評価をしている子、友達のよさに気付いている子、今後の学習等への活用を意識している子を意図的に指名し、価値付けを図る。</p> <p>グ</p> <p>○学習計画表を基にして、グループごとに次時の学習活動を確かめる。</p>

